

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 2 1 8 号	
件 名	観測史上最大の降雪時の対応等について	
要 旨	<p>2022年12月は除雪作業に苦勞しました。市長は、12月22日の定例記者会見で、日中の除雪対応に課題がある。十分な除雪ができず、除雪力には限界があると会見。しかし、新潟市除雪体制等検証会議では、国や県に除排雪機械や人員の応援連携強化を提言。レベルに合った除排雪の実施はうそばかり。あり得ない。効率的に除排雪し、市と地域が一体となった除雪対策・体制を構築するという。地域は誰も聞いていない。知らない文書。除雪パンフレットには、除雪通過点のみ記入はあるが、終着点の記入がない。降雪時には、2車線路が1車線になる。そのまま放置し、除雪しない。2車線路の拡幅工事は放置し、天気、雨任せで終着点がない。バス停は地域で除雪とパンフレットに掲載。雪の塊なんて誰も除雪しない。地域のバス停で、2名の老人が雪にはまり、転倒。1名は、土曜日で病院にも行けなかった。幹線道路の沼垂、長嶺、万代のバス路線は、大型車が擦れ違いできず、バス路線は全面運休。行政は誰も知らない。除雪には、格差社会がある。道路は10センチメートル、歩道は20センチメートルから除雪作業なんてうそです。最近では、あちらこちらの交差点付近に雪の塊を排雪し、拡大している。行政は、パトロールしているのに、危険を放置している。横断歩道の両側にも雪の山があり、歩道として利用できない。予算がないのなら、市街地再開発事業等の補助金の見直し、支出規制をすべき。起債の上限を設定してほしい。除雪対策費の予算を拡大して、誰もが安心して住める新潟市にしてほしい。</p> <p style="text-align: right;">(裏面につづく)</p>	
付 託 年月日 委員会	令和5年2月20日	第1項 } 第7項 } 環境建設常任委員会
受 理	令和5年1月6日 第539号	

にいがた2kmシェアサイクルの電動アシスト自転車のほとんどがサイクルポート（屋根つき自転車置場）以外は野ざらしで、放置してある。利用者の利便性の向上に努めると発表。すなわち、冬期、雨、高温日でも、屋根なしで放置。パンフレット等には、雪や雨にぬれるとブレーキ、レバー、チェーン、リヤほかバッテリー等の発火原因にもなりかねないという。一般的に、普通は、雪や雨などにはカバーをかけて、水気が当たらないように保管すべきという。しかし、新潟市は問題がないと言う。今回の陳情に対して、国土交通省や国民生活センター、消費者庁も注目しています。冬期間の安全対策、スタッドレスタイヤ交換、アイスバーン対策など何もしない利用者への注意喚起、周知という安全面の説明看板が未設置。とても危険です。

最後に、趣旨不採用で、当分の間実施困難でも、社会環境や状況の変化等何らかの機会に対応することなどは検討してほしい。

つきましては、貴議会において措置、要望等働きかけていただきますよう、下記のとおり陳情いたします。

記

- 1 除雪は、今までどおり、交差点付近に山積みしても注意しないこと。
- 2 道路は10センチメートル、歩道は20センチメートルから除雪としているが、うそだから、見直しすること。
- 3 拡幅除雪しないのだから、パンフレットから削除すること。
- 4 除雪予算に回せるよう、市街地再開発事業等の補助金は上限の見直しをすること。
- 5 にいがた2kmシェアサイクルの電動アシスト自転車は20キロメートル以上のスピードが出るが、冬期間はスタッドレスタイヤへの交換をしないこと。
- 6 にいがた2kmシェアサイクルの電動アシスト自転車は、雪、雨、高温でも野ざらし、放置すること。
- 7 にいがた2kmシェアサイクルの電動アシスト自転車は、正しい乗り方、危険性等の看板を設置しないこと。